



TITLE:

<巻頭言> 情報化社会でのメーカとユーザ

AUTHOR(S):

坂井, 利之

CITATION:

坂井, 利之. <巻頭言> 情報化社会でのメーカとユーザ. Cue 1999, 4: 1-2

ISSUE DATE:

1999-12

URL:

<https://doi.org/10.14989/57798>

RIGHT:

巻頭言

情報化社会でのメーカとユーザ

坂 井 利 之



物を作れば売れる、技術がよければ宣伝は要らぬと言った考え方は遠い昔の話になった。

ここで私が言いたいのは、工業社会の成熟した現在のメーカ、製品の考え方が高度情報化社会に入ってきて、革命的な発想・条件の変革が必要とされているということである。それは、どんな機器も具備すべき条件はオンライン、システム要素、環境適合素材という3つである。

社会がグローバル、ローカルいずれも情報通信の何重ものネットワーク網に囲まれ、家庭も工場のようにオートメーション化されるだろうからである。時代が急展開し、新しい技術・素材・環境が次々に展開すると、行政、メーカ、医療、金融にもアカウントビリティ（説明責任）が必須の条件となる。臓器移植における医師団、地域開発における行政、建設業界のアセスメントや必要性の説明、そして新産業（バイオ、電子商取引）では、技術全般から商品の内容、関連の法律やユーザの安全性、利害を各種ケースについて一般・素人の人への説明が肝要となる。また、製品が活動中は勿論、ライフサイクルの後でもリサイクル率がよく、廃棄物の処理でも自然界の気圏・水圏、地圏に悪影響を及ぼさないという環境適合素材で製造されている性格が重要視されている。ここで、近未来の家庭オートメーションについて上述の3要件を考えてみよう。

家庭の日常生活で、24時間電源が入っている冷蔵庫は電気製品の中ではサイズが大きいので、これが家庭オートメーション化情報の中枢になる可能性がある。家族誰もがアクセスし、その頻度は高い。ただ、そこでインターネット発受信で長時間居れるかが問題ではあるが、短時間メッセージには大丈夫である。冷蔵庫の中の物品管理は生易しい事ではない。庫内の食材の品物、数、有効期限などはスーパーのバーコードスキャナでも入るし、家庭用の常備食品や出来上がり品などは、自家用の表によってパソコンのスキャナで、入力することも出来よう。

それらを冷蔵庫のディスプレイ（インターネットと兼用）に表示させて買物の計画を立てたり、子供

への指示にも使う。時間のなかった時には外出先からオンラインでの問い合わせで買物をこなし、また家庭内でのセキュリティ（監視カメラ）・健康管理には浴場、トイレと結んで、そこにある機器のデータを冷蔵庫に集中させて情報管理するシステムの設計が検討に値するだろう。家庭内の集中管理制御盤を、工場内のプラントや製造、管理ラインの超ミニチュア版で安価に出来ないかということである。10数年前は到底考えられなかった通信システムが、ゲームやパソコンで家庭内に入っている事実は大いに参考になる。

PL法が施行され、ユーザの安全確保、さらに環境破壊・汚染、物品の買替や廃棄時の回収がメーカーに義務付けられるようになると、メーカーは売り放しは不可能となり、物の生涯にわたる世話を見ることになり、この点では人についての市町村と同じような機能を備えねばならない。

すなわち、ユーザとなる人は、生まれる以前の母子手帳を持つ人から、死んで火葬に付されるまでの老若男女、健康に障害のある人々（病院の診療科すべて）のあらゆるレベルにわたる。それらの人の使う環境を充分知るには、メーカーの人は偏った一部の階層の人のみであるから、市町村住民の実態を知る努力が必要と思う。

情報化社会でのメーカーは、直接は本来の業種としての製品供給と、更に間接的にはネットワークを介して上述のあらゆる住民に関与するので、その評価を受ける。特にユーザが商品を探すときは、エージェントがインターネットではユーザ側になり、色々のメーカー、商品を自由に比較できるし、その結果は現在の消費者テストの比ではない。

今では殆どの機器には、マイコンが入っていてオンラインとなり、メモリはユーザあるいはメーカーの設定・更新によって幾度か変わり、機能の向上や故障時には機器の一部のブロックの取替えで対応するなど、機器納入時のままで終わることはない。廃棄時の部品・素材まで考えた製品の設計がメーカーの役割であり、コンピュータ、パソコンのようにその時までは、物も機能も育て見守ってゆくという理念の徹底が求められるのではなかろうか。